135　SPECTによる門脈側副血行路の描出と食道静脈瘤内視鏡所見との比較

柏木　徹、三重野正之、橋川一雄、上原　章、小塚隆弘（大阪大学中央放射線部）　木村和文（同、バイオ研）　佐藤信紘、鎌田武信（同、第一内科）　東正祥、高士　清、溝谷夏樹、小泉岳夫（大阪厚生年金病院）

^{99m}Tc標識赤血球を用いた腹部血液プールSPECTが門脈側副血行路の診断に有用であることを報告したが、今回は側副血行路の種類あるいは描出の程度と食道静脈瘤内視鏡所見との関連について検討したので報告する。対象は肝硬変58例である。SPECTにより食道静脈瘤への供血路となる胃冠状静脈、短胃静脈はそれぞれ36例、9例で描出された。これらの側副血行路が描出されない例では食道静脈瘤の程度は軽度であった。SPECTにより脾腎短絡路が11例に描出されたが、このうち1例のみ食道静脈瘤が高度で、7例が軽度、3例では認められなかった。

Presented by Medical*Online